鹿南タイムズ

発行所
鹿児島県立鹿児島南高等学校
新　聞　部
鹿児島市谷山中央8丁目4番1号

9月10日に開催された第67回体育祭の3学年の集合写真。3年生が、競技・応援の部ともに優勝して貫録を見せた。

進路速報

進学・就職とも好調

国公立大ＡＯ・推薦合格27人

文系人気が継続　教員養成は改組

今年度の３年生の進学状況は、国公立大学ＡＯ入試、推薦Ⅰ型（センターなし）の合格者が、過去10年間で最高の19人（昨年９人）となった。内訳は、鹿児島大学４人、筑波大学、東京学芸大学、山口大学２人、九州工業大学２人、佐賀大学、北九州市立大学４人、下関市立大学、名桜大学３人。

推薦Ⅱ型（センターあり）の合格者は８人（昨年11人）で、ＡＯ・推薦入試による国公立大学の合格者は計27人（昨年20人）、鹿児島県立短期大学の推薦合格者は12人（昨年４人）と多く、合格率はかなり高かった。

私立大学は、県内はもとより、日本大学、日本体育大学、順天堂大学、高崎商科大学、東海大学、中京大学、福岡大学等に合格した。

全国的には、昨年度入試からみられたように「理高文低」傾向が止まり、文系人気が継続している。また、２０１７年度においても、国立大学で教育学系統に関する改組が進められており、非教員養成系（教員免許状の取得を卒業要件としない）の募集を停止し、教員養成系や理系の学部等、社会的要請の高い学部の募集人員を増加する傾向がみられる。

英語重視　外部検定も活用

また、個別試験（２次試験）に英語を課す大学の増加も続いており、英語外部検定試験を一般入試に活用する傾向が強まり、地元の鹿児島大学も活用している。

進路指導部の森義仁先生は、卒業生に向けて、「指示待ち人間だと、これからは機械に仕事が取って代わられる時代です。まず自分で考えて積極的に行動することが大事です。コミュニケーション能力やリーダーシップも身につけてください」とエールを寄せられた。

就職　11月全員決定

３か月早い　内定ペース

今年度の就職状況は、例年より３か月程早く11月初旬に一般企業の就職希望者31人全員の内定が決定した。例年、年内にはほとんどの生徒が内定し、最終的には２月初旬に全員の内定が決定する。昨年も１か月程早く全員の内定が決まったが、それを上回る早いペースで内定が決まった。

求人数は、関東・関西の求人が昨年より約２倍に増加し、県内は約１．５倍と増加した。本校生徒の希望が多い県内事務職は１．２倍と、昨年比０．１の増加にとどまった。全国的には、２０２０年の東京オリンピックの影響で工業系の職種・建設業及び飲食業の求人が今年度も増加した。さらに、人事担当者・管理職が求人票を昨年度に続いて郵送ではなく学校に持参するケースが多く見られた。

生徒が内定した一般企業は、南国殖産（株）、鹿児島県農業協同組合中央会、（株）鹿児島銀行、東部農業協同組合、鹿児島県信用漁業協同組合連合会、鹿児島トヨタ自動車（株）、南日本日野自動車（株）、京セラ（株）鹿児島国分工場、鹿児島製茶（株）、三洋ハウス（株）、（株）九州糧販、（株）ジェイアール西日本フードサービスネット、鹿児島国際観光（株）、セイカ食品（株）、（株）ＡＯＫＩなど計31人。

公務員の内定は、鹿児島市（一般職）、鹿児島県警察官、鹿児島県職員（警察事務）、姶良市消防、海上保安学校（船舶運航システム）、国家一般職（東京労働局）、自衛官候補生など計８人（延べ10人）。

進路指導部の吉満隆生先生は卒業生に「毎年、就職希望者全員の内定後にも、県内企業から『まだ未定の生徒さんがいましたら紹介してください』と電話があります。これは君たちの先輩が頑張っているので、『本校生徒を雇いたい』ということです。先輩に続け！」とエールを送られた。

「県議会探訪記」で県政に関心高めて

タイムズ記者　５人出演

今回、新聞部は、鹿児島県議会事務局の作成する広報番組「県議会探訪記２０１６」に出演した。この番組は、県議会の仕組みや活動を広く県民に広報するという趣旨で制作されたもので、番組は、11月５日にＫＴＳで30分番組として放送された他、ＤＶＤで県内の学校に配布された。

その内容は、本校新聞部の２年生５人が、県議会の本会議や委員会を傍聴する体験や、県議会議長や副議長、文教警察委員長に直接取材するというもの。選挙権年齢の18歳引き下げをきっかけとして、生徒に意識調査をしたり、投票や政治に関心をもってもらうための記事を報道してきた新聞部にとって貴重な機会となった。

今回の取材の目玉は、通常ではなかなかありえない県議会議長や常任委員会の委員長などに直接にお話を伺えたということ。このような幸運な取材で得られたことは本紙の２，３面に掲載している。ぜひ、読んでほしい。高校生への県議会の方々の「県政に関心を持って」という熱いメッセージにきっと感じることがあるはずだ。

私たちシャイなタイムズスタッフは、数回にわたる学校や県議会での撮影に緊張の連続だった。しかし、番組制作会社のスタッフや県議会事務局の方々、そしてＫＴＳの加茂川里美アナウンサーに励まされ、なんとか大役を果たすことができた。私たち自身は、実際に番組を見ることは恥ずかしすぎてなかなかできないのだが、県議会の仕組みや、県議会が本県の発展のために活動している姿が分かりやすくまとめられた番組だと思う。今回の撮影を通して、高校生も県政にもっと関心を持ち、自分の意見を持たなくてはいけないと痛感させられた。番組は、県議会のＨＰでも動画で見ることができる。よかったら視聴してあなたも県政への関心を高めてほしい。

２・３面に特集

番組では加茂川里美アナウンサーが県議会の仕組みをわかりやすく解説している。

海岸線

国民的な人気を誇っていた男性アイドルグループＳＭＡＰ。解散宣言で世間を騒がせたが、彼らは数々の名曲を生み出してきた。その中でも「夜空ノムコウ」の歌詞には「あれから僕たちは何かを信じてこれたかな」という一節がある。▼これはいわゆる「ら抜き言葉」だ。「ら抜き言葉」は、国語の文法としてはあまりよくないとされているが、この曲は今や多くの日本人に親しまれる名曲となっている。歌詞の「ら抜き」を指摘する声はまず聞かない。現代において「ら抜き言葉」は至るところで使われている。そのほうが相手に親しみやすさを与え、会話の流れを自然にする効果もあるという。▼数多くの名曲を残したＳＭＡＰ。29年間もの長い活動期間は、ひとつの時代とも言える。そうした、時間の流れの中で、「ら抜き言葉」も違和感なく自然と受け入れられていったのかもしれない。▼言葉が、その時代において使いやすいように変化することを止めることはできない。ただ、願わくはＳＭＡＰの歌の歌詞のように親しみ深く、心が温まるような言葉に変化してほしいものだ。

卒業記念特大号
1面…進学・就職とも好調
2・3面…「県議会探訪記」県議会議長等に直接取材
4・5面…続編「本校は巨大軍需工場跡」大先輩 軍需工場の日々語る　スクープ 工場本館の写真公開
6面…グリーンファーム体験
7面…部活動 鹿南日々躍進
8面…すっぴんきらり新開先生

【第11号卒業記念特大号について】今回の新聞は「鹿南タイムズ」初の８面構成の拡大版でお送りします。